

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0175700350		
法人名	株式会社 一条		
事業所名	グループホームほろむい二号館 (やさし荘)		
所在地	岩見沢市幌向2条1丁目611-109		
自己評価作成日	平成26年9月19日	評価結果市町村受理日	平成26年10月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「安心して暮らすということ」「自分らしく生きるということ」と言う施設理念に基づきご家族様にも協力して頂きながら支援をしている。誕生会、食事会、外出行事等にはご家族様への参加も呼びかけ思い出に残るような生活づくりの提供を心がけている。入居後の受診先についてはご本人様、ご家族様の希望・要望を踏まえながら対応をしている。グループホームにて受診の付添い、送迎を行い馴染みの医療機関への利用を継続し疾患に対する不安感が軽減でき安心して過ごして頂ける様、努めている。正看護師を配置し医療機関との連携を図りながら看取りについての相談、実施を行っている。町内会に加入し花壇の整備、清掃活動、地域のお祭り等には積極的に参加している。交流を通じ認知症への理解を深めて頂いている。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=tue&JigyosyoCd=0175700350-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス
所在地	札幌市中央区北1条西7丁目1番あおいビル7階
訪問調査日	平成 26 年 10 月 1 日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

JR幌向駅から徒歩10分の緑の多い住宅地にある平屋建て2ユニットのグループホームです。道路を挟んで向かい側に同一法人の3ユニットのグループホームとデイサービスなどがあり、一体的な運営がなされています。屋根の付いた吹き抜けのある中庭を囲むように両ユニットがあり、共用空間からは中庭や周りの庭の花を眺めることができます。地域との交流が活発で、施設長が町内会の班長を務めて様々な行事で住民と交流しています。また、中学生の体験学習も受け入れたり、児童館の児童とも交流しています。介護計画では、個々のフェイスシート、課題分析シートを整備し、状態に応じた介護計画を作成しています。また、医療面では職員に看護師を配置し、定期的な往診を受けるなど支援体制を築いています。年間を通して外出行事が豊富にあり、花見や紅葉狩り、ほろむいフェスタ、バラ公園など様々な場所に出かけて楽しんでいきます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します					
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	定期的な全体会議・ユニット会議において、施設理念を中心に考え、新しい職員の方にもオリエンテーションのなかで理念について理解できる様、随時、説明している。	理念の「安心して暮らすということ」に、地域に密着し近隣の人とふれあうという意味を込め、地域密着型サービスの理念として確立しています。理念を各所に掲示し理解を促しています。ユニット毎の目標も掲げています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、定期的な草刈りや花壇の手入れに率先して参加し、地域の方との交流を図っている。また、避難訓練時には参加して頂いている。	利用者と一緒に幌向のお祭りや町内会の交流会に参加しています。施設長が町内会の班長を務め、地域に貢献しています。また、中学生の体験学習も受け入れたり、近くの児童館の児童とも交流しています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にて認知症についての理解や定期的に町内会向けにお便りを発行する事により、ホームでの活動の理解を得ている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域に根ざしたグループホームのあり方や災害時等の協力体制等を市関係者や町内会の役員の方にもご出席頂き、出されて意見を実践している。	会議は2ヵ月毎に開催され、市や地域包括支援センター職員、町内会役員、利用者家族が参加して、サービス評価や防災、運営報告、感染症など様々なテーマで話し合っています。議事録の家族への送付も検討しています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の議事録やグループホームのお便りを届けたりと、こまめに顔を出し、その都度、運営上の疑問点や問題点等を話をさせて頂き、市との繋がりに努めている。	運営推進会議に市や地域包括支援センター職員の参加があり、相談事があればいつでも電話や市役所に出向いて相談しています。運営推進会議の議事録やホーム便りを市役所に届ける際にも情報交換をしています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ホーム長会議、ユニット会議で随時、身体拘束を行わないケアを話し合い、全職員が身体拘束しないケアをマニュアルを基にし話し合い、理解した上で実行している。	身体拘束は行っておらず、禁止の対象となる具体的な行為を示したマニュアルを用意し、勉強会などで職員の理解を促しています。玄関は日中施錠せず、出入りがあればセンサーや外のカメラで分かるようにしています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修等に参加し、ホーム長会議・ユニット会議等で随時話し合いをしている。常日頃から虐待行為につながらないように、口頭ではあるが周知している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	介護支援専門員を中心に内部研修の機会や外部研修の機会を設け、ユニット会議等で職員全員に理解ができる様にしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	時間を掛け解りやすく説明し、疑問点を話し合いご本人様やご家族様に理解・納得して頂いている。その疑問点について随時、対応している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常よりご本人様やご家族様と職員が気兼ねなく話せる雰囲気を作り、直接、意見・不満・苦情を伝えられる関係づくりをしている。また、伝えられた内容を検討、改善策を話し合い反映させている。	家族が来訪した際や介護計画の説明時に意見を聞き、話し合った内容を支援経過に記し、職員間で共有しています。2ヵ月毎にホーム便りを作成し、その中で利用者ごとのコーナーを作り、家族に詳しく様子を伝えています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	普段より、代表者や管理者が現場と関わり、職員と気軽に話し合える環境を作っている。ホーム長会議やユニット会議での意見を現場に反映させている。	法人全体のホーム長会議とユニット毎の会議があり、活発に意見交換しています。職員は、施設長や管理者といつでも相談することができます。また職員は、防災や感染症、身体拘束防止などの委員会に属したり、行事を分担して運営に参加しています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員全員にシフト希望を取り、それを基に代表者が作成している。また、日常より職員とコミュニケーションを取り、働きやすい環境づくりを話し合い改善出来る様、心がけている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部での研修・講習の情報があれば、随時、受講している。そこで受講した内容を各ユニット会議にて報告会を行い、個々のレベルアップを目指している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修に参加する事により、他事業所との情報交換や交流を行っている。また、定期的に他事業所を訪問し情報交換を図っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ゆったりと話す時間、話しやすい雰囲気づくりをし不安や要望等の聞き取りをしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様が会話しやすい状況を作り不安や困っている事をうかがい答えられる様、努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	情報を基にユニット会議を開き、どんな状況でも対応できる様、支援にあたっている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	慣れ合いの中でしてしまう声かけ等に気をつけ人生の先輩としての尊敬の気持ちを常に持つ様に気をつけている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	どんな小さな事でもご家族様に報告し情報を共有し適切な支援を提供している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様、縁戚者もちろんの事、知人等の面会は自由にして頂いている。	友人や知人の来訪があり、また、ホームの電話をいつでも利用することができます。部屋に電話を引いている方もいます。利用者の希望に沿って花や生活用品と一緒に買いに行っています。家族と共に歌手のコンサートに出かける方もいます。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	トラブルがあった場合、職員が中に入り解決し、お互いに支え合える様、支援に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご家族様と街で会った時等、近況を伺っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	居室にいる時何をしているか。何をしたいか。細かく話の中に取り入れ希望や要求などできる限り添えるように努めている。	半分ほどの方が思いを言葉で表現でき、難しい方も仕草や表情、家族からの情報をもとに把握しています。フェイスシートと課題分析シートを毎年更新し、情報を共有しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者様やご家族様と会話し趣味、嗜好を伺い経過を把握し支援に反映している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	安全、安楽な状態で過ごせる様、見守りし小さなできごとにも記録に残し医療機関との情報の共有を図り日常のケアに活かしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人様、ご家族様の意見・希望を聞きそれに添った介護計画を作り、ケアに反映できる様に努めている。	介護計画は6ヵ月毎に更新し、変化がある場合は都度の更新も行っています。毎月のユニット会議でカンファレンスを行い、計画更新時に目標に対する評価を行って次の計画を作成しています。一方、日々の記録は介護目標に対応する記録が不足しています。	日々の記録について、介護目標を意識して目標項目の実施内容やその時の利用者の様子などを記録し、計画更新に活用することを期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎月の会議や記録等で日々の生活、健康面等の報告を行い情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人様やご家族様のニーズに応じ、通院や外出時の送迎をしている。また、訪問美容室にも来て頂いている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会に入り清掃、花壇の整備、焼き肉等の交流会、地域のお祭りに参加し交流を深めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人様が入居前より通院しているかかりつけの医療機関を継続し受診している。また、提携医療機関の往診の利用を希望される方もいる。	各利用者が概ね月2回、提携医による往診を受けています。他のかかりつけ医や専門医への通院もホームで支援しています。受診内容は受診ノートと個々の経過表に記載し、共有しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	身体、表情の変化を日々、注意・観察し少しの変化も職員が情報を共有し、看護師へ報告、相談し支援している。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中はなるべくお見舞いし、安心して治療して頂ける様、心がけている。病院関係者と連携をとり情報を共有している。			
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人様の状態や経過を考慮し、ご家族様、主治医と話し合い方針を決め対応している。	利用開始時に「重度化した場合の対応に係る指針」の書類を説明し、同意書に署名捺印を得ています。看取りが必要な場合はあらかじめ「看取りターミナルケア説明書」の書類を取り交わし、家族や医師と方針を共有しています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時、事故発生時の連携体制や応急手当等の対応をユニット会議を定期的に行い確認している。			
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時における避難訓練を消防署の協力を得て実施している。またユニットでの自主訓練も行っている。	隣接する同一法人のグループホームなどと合同で、年2回、夜間を想定した避難訓練を消防や地域の協力のもと行っています。一方、水や食料などの備蓄品の用意や職員の救急救命訓練の受講は十分といえませんが、	全職員の計画的な救急救命訓練の受講と、災害時に必要と考えられる備蓄品の用意を期待します。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーを損ねない様、一人一人の人格を把握し、対応している。	利用者の呼びかけは「さん」づけを基本とし、人格を尊重した対応を行っています。外部研修や内部の勉強会で接遇を学んでいます。利用者のファイルは事務所コーナーで安全に保管しています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活で職員が、ご本人様の思いを聞き相談しながらできるだけ自己決定ができる様に声かけている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の都合を優先するのではなく入居者様のペースで時間にゆとりを持ち希望にそって過ごして頂ける様支援している。ご本人様の体調や状態に合わせて声かけを行い散歩や入浴をうながしている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎月、訪問美容室に来て頂いている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食堂だけではなく場所を変えたり雰囲気を変えたりしている。外食の機会を設けたり、入居者様と職員と一緒に作りおやつを作る等、楽しんで頂けるようにしている。	配食サービスの献立を利用していますが、行事の際は出前など利用者の希望を聞きながら特別に用意したり、外食に出かけています。利用者と一緒におやつ作りを行うこともあります。テーブルやトレイ拭きを手伝う方もいます。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の食事量や水分摂取量を把握し不足している時は、ご本人様の好みの物を聞き提供し対応している。入居者様の嚥下状態に合わせて、キザミ・とろみ・ミキサー食を提供している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、入居者様の状態に合わせて行っている。			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	なるべくトイレで排泄を行って頂ける様、声かけしている。表情や行動に留意してトイレ誘導の声かけをしている。	全員の排泄状況を記録してパターンを把握しており、誘導介助が必要な方はタイミングや仕草から読み取り、羞恥心に配慮しながら誘導しています。日中は全員がトイレで排泄し、夜間のみポータブルトイレを利用する方もいます。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	天気の良い日は散歩に誘い、毎日行っている体操に参加して頂き運動の機会をつくっている。また、日々の排便の状態や水分摂取量を確認、把握している。			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週に2回の入浴の他に希望がある場合には、対応している。また、入浴中はリラックスし楽しんで頂けるような声かけをしている。	概ね午後の時間帯で各利用者が週2回以上入浴しています。拒否がある場合でも、日にちや担当者を替えて入浴を促したり、清拭対応を行っています。入浴剤を使ったり、湯加減を調整して快適に入浴できるようにしています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の生活のリズムや状況に応じて休んで頂いている。居室では落ち着かず1人で休む事が難しい方は、職員が見守り、居間のソファにて休んで頂いている。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服用する薬は2人で確認。服用後は飲み込むまで見守りをしている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々、生活の中で洗濯物たたみ等、職員と一緒にしてもらい役割や目的を持って頂ける様にしている。毎月、レクリエーションを行い楽しんで頂ける様に支援している。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	2ヶ月に一度は、外出行事を設けている。天気の良い日やご本人様の希望がある時には散歩に出かけられる様、支援をしている。	天気の良い日は気軽にホームの周辺を散歩しており、車いすの方も一緒に外出できます。農協やコンビニエンスストアへの個別の買い物にも同行しています。花見や紅葉狩り、ほろむいフェスタ、バラ公園など様々な年間行事を実施し、頻繁に買い物ツアーも行っています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族様のご了承のもと自己管理されている方が施設にて預かって居る方が多数である。外出行事等の際にはお小遣を持参し希望の物を購入して頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人様より希望のある時には職員が電話を行い会話して頂いている。耳が遠く、聞き取りにくい方には職員が変わりにお伝えする事もある。手紙を書かれる方もおり職員が投函をしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居心地良く過ごして頂ける様、室温や明かりをこまめに調整している。手工芸で作られた作品や写真を展示するスペースを設け楽しんで頂ける様にしている。	2ユニットの平屋建てで、屋根の付いた吹き抜けの中庭を囲むように建物が造られています。共用空間からは中庭や周りの庭の花を眺めることができます。居間と食堂が広く、ゆったりと過ごすことができます。壁には利用者の写真や折り紙作品、絵など飾られ、明るく楽しい雰囲気となっています。温度や湿度も調整されています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間の居間にはソファを設置し各々が新聞、雑誌、テレビを楽しめるようにしている。入居者様同士で会話を楽しんでもらえる空間づくりをしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今まで使い慣れた家具や日用品をお持ち頂き、ご本人様、ご家族様と相談しながら希望に叶う様に配置している。	居室は利用者の使い慣れたタンス、机、テレビなどを自由に持ち込んでいます。壁にも写真やカレンダーなどを飾りつけし、利用者の個性を生かした部屋作りがなされています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや浴室等の場所が分かりやすい様に表示板を設置している。		